

2013年上半期中国電子情報産業の動向について

2013年8月22日

JEITA 北京事務所 胡 夢雲

2013年7月29日、中国工業信息化部は、「上半期の電子情報製造業の伸び幅は鈍化」を発表しました。当所ではその概要と2013年度上半期の中国電子情報産業の輸出入状況、及び固定資産投資状況の発表文書と共に整理し、レポートとしてとりまとめましたので報告します。

【はじめに】

今年上半期は、錯綜する複雑な国内外の政治・経済情勢の背景の下、中国の電子情報産業は相対的に安定して進めてきたとはいえ、国際経済の状況が依然として複雑、深刻な様相を呈し、とりわけ欧州経済が持続的に低迷し、世界経済回復が総体的に遅れていることから、産業全体の生産、輸出、内販の伸びはいずれも小幅に下落し、利益や品質が楽観できない等の問題を考慮すると、企業の経営圧力は依然大きいものと言えよう。

一、全体的な状況

(一) 製造業の伸び幅が鈍化

上半期、一定規模以上の製造業の付加価値額伸び幅は11.4%で、工業の平均水準を2.1ポイント上回った。とはいえ、前年同期と今年第一四半期と比べて、それぞれ1ポイント、0.1ポイント下落した。販売額は4兆3495億元で前年同期比12.4%増、前年同期と今年第一四半期に比べていずれも0.2ポイント下落した。

6月、一定規模以上の製造業の付加価値額伸び幅は5月に比べて0.7ポイント下落した。産業全体の販売額、内販額、輸出額はそれぞれ10.5%、17.6%、4.1%伸び、5月に比べてそれぞれ4ポイント、8.3ポイント、1.2ポイント下落した。

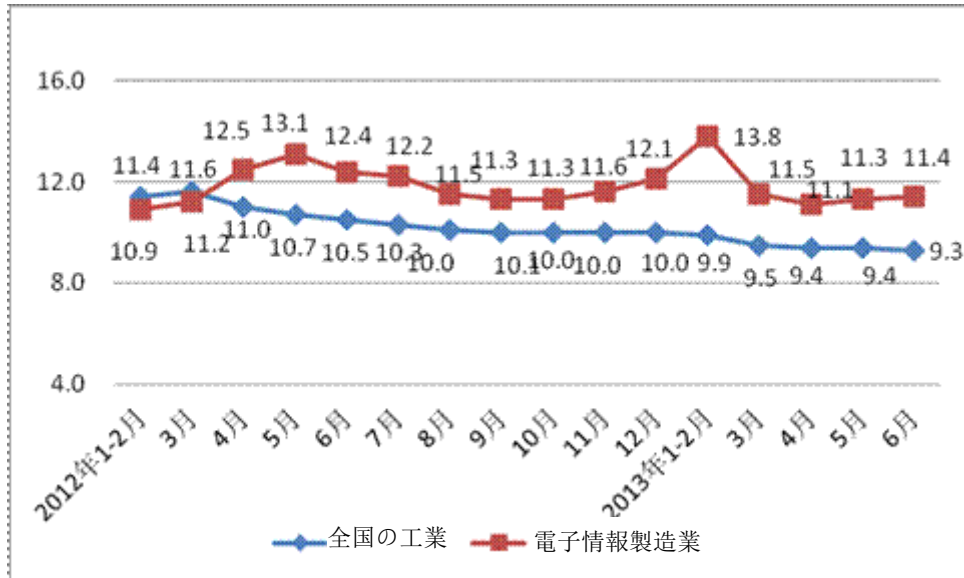


図1 2012年-2013年6月の電子情報製造業の伸び幅の比較状況

(二) 産業全体の利益率は依然として低水準

1-5月、産業全体の利益は1093億元、前年同期比39.3%増で、伸び幅は前年同期(-28%)に比べて67.3ポイント上昇した。税金は561億元で、26.5%増加した。産業全体の利益率は3.1%で前年同期に比べて0.7ポイント上昇した。とはいえ、前年末時点に比べて1ポイント低く、工業の平均水準よりも2.3ポイント低かった。特徴の二つ目は、産業全体の赤字企業の欠損額がマイナス成長を呈した。1-5月、産業全体で赤字企業は4769社で、赤字を計上した企業は全体の27.3%、赤字企業の欠損額は前年同期に比べて17.3%減、前年同期に比べて96ポイント低かった。三つ目として、企業の経営コストが高止まりを続けている。1-5月の産業全体における企業の主要業務のコストは3兆1275億元、前年同期比12.2%増で、100元当たりの主要業務の収入のうち、コストは90元と、工業の平均水準を4.6元上回った。

(三) 固定資産向け投資が小幅に回復

上半期、電子情報産業における固定資産向け投資は一貫して工業向け投資よりも5%以上回り、全体的に依然として低位な伸びを呈した。月毎にみると、投資の伸びは「V」字型を呈し、4月に谷底に達した後、明らかな回復の兆しをみせている。上半期、電子情報産業における500万元以上のプロジェクト投資額(完成ベース)は4731億元で前年同期比10.4%増加、今年初めて前年同期の伸び幅を上回った(2.2ポイント上回る。月毎に

みると、4月のわずか4.1%増を底打ちとして、5月と6月はそれぞれ連続して5.1ポイント、6.8ポイント回復、6月の伸び幅は16%に達し、投資額（完成ベース）は1150億元に上った。

（四） 輸出入は急成長を保持

上半期、中国における電子情報製品の輸出入は急成長を呈し、輸出入総額は6489億米ドル、伸び幅は21.1%だった。伸び幅は全国の商品対外貿易総額の伸び幅を12.5ポイント上回り、全国の対外貿易総額の32.5%を占めた。うち、輸出額は3792億米ドル、前年同期比18.8%増、伸び幅は前年同期に比べて13.6ポイント上昇し、全国の対外輸出額の伸び幅を8.4ポイント上回り、全国の対外輸出額の36.0%を占めた。輸出額は2698億米ドル、前年同期比24.5%増、伸び幅は前年同期に比べて27.1ポイント上昇し、全国の対外輸出額の伸び幅を17.8ポイント上回り、全国の対外輸出額の28.6%を占めた。

二、主たる特徴

（一） 各業種の成長がまちまち

通信機器産業の販売、輸出の伸び幅はいずれも各産業のトップに位置する。第二四半期に入ってから、通信機器産業の販売額はそれぞれ25.6%、28.1%、28.7%増加し、一途に高止まりの情勢を呈している。上半期、通信機器産業の販売額、輸出額の伸び幅はそれぞれ28.1%、23.6%で、それぞれ産業の平均水準よりも16.3、17.8ポイント高かった。2つの指標の伸び幅はいずれも各産業のトップに位置した。上半期の産業全体における携帯電話の生産台数は6億7898万9000台で、伸び幅は22.6%だった。移動体通信基地局の通信路数は5789万4000で下落幅は5.7%、SPC交換機は1371万線、下落幅は3.5%だった。

家庭用AV機器産業は急成長を保持している。省エネルギー惠民政策の期限到来の影響を受け、6月の家庭用AV機器産業の販売額は11.2%増で、5月に比べて10ポイント下がり、伸び幅は明らかに下落している。上半期の家庭用AV機器産業の販売額は3072億元、伸び幅は15.2%、前年同期に比べて10.8ポイント上回った。新政策が発表されない場合において、今後のカラーテレビ産業の行方は更に注目に値する。上半期の産業全体のカラーテレビ生産台数は6012万2000台、伸び幅は5.2%、うち液晶テレビは4762万5000台、前年同期比0.6%減、産業全体に占める比率は79.2%だった。CRTテレビは前年同期57.1%減少、PDPテレビは同28.8%増加した。

電子部品産業の伸び幅は産業全体の平均水準よりも上で、電子コンポーネント産業の比率はやや下がった。上半期、電子部品産業の販売額と輸出額はそれぞれ6698億元、4161

億円で、それぞれ前年同期比 14.7%増、9.4%増。産業全体の平均水準を 2.3 ポイント、3.6 ポイントをそれぞれ上回った。うち、光電子部品産業の販売額、輸出額はそれぞれ 17.2%、11.7%増加した。上半期、電子コンポーネント産業の販売額と輸出額はそれぞれ 7426 億円、3445 億円で、産業全体のシェアはそれぞれ 17.1%、15.2%、いずれも前年同期に比べて 0.4 ポイント低下した。上半期、産業全体の集積回路生産量は 421 億個、前年同期比 9.9%増だった。ディスクリット半導体の生産量は 2214 億個で、同 2.2%増加した。電子コンポーネントは 1 兆 1617 億個で同 6.5%増加した。

コンピューター産業は 4 ヶ月連続で下落した。今年に入って、コンピューター産業の販売額と輸出額は一途下落し、3-6 月の月毎の販売額の伸び幅はそれぞれ 9.7%、6.7%、6.3%、5.0%で、輸出額の伸び幅はそれぞれ 8.7%、6.8%、3.8、3.1%だった。これら 2 つの指標で連続 4 ヶ月、伸び幅が下落した。販売額と輸出額の産業全体への寄与度はそれぞれ前年同期比 18.6 ポイント、27.2 ポイント低下した。上半期、産業全体の PC 生産量は 1 億 5151 万 7000 台で、うちノートブック PC の伸び幅は前年同期比 3.0%で、産業全体の生産量シェアは 75.3%だった。デジタルカメラの生産量は 2338 万 5000 台で前年同期比 35.5%低下した。

ソフトウェアと情報技術サービス業は小幅に落ち込む趨勢を呈している。上半期、中国におけるソフトウェアと情報技術サービス業の各月の伸び幅は一貫して前年同期に比べて 0-3 ポイント低下し、全体的に小幅に落ち込む情勢を呈した。6 月末時点までの、ソフトウェア事業の収入は 1 兆 3900 億円で前年同期比 24.5%増、伸び幅は前年同期に比べて 1.7 ポイント低下した。うち、6 月の伸び幅は 25.4%増で、5 月に比べて 4.5 ポイント向上した。上半期、IC デザインと組み込み式システムの売上高はそれぞれ 395 億円、2221 億円で前年同期比 10.1%増、19.2%増で、それぞれ産業の平均水準を 14.4 ポイント、5.3 ポイント下回り、前年同期に比べてそれぞれ 20.4 ポイント、3.5 ポイント低かった。ソフトウェア産業をめぐる新政策の導引の下、ソフトウェア製品とシステム統合は成長ペースを上げ、売上高はそれぞれ 4447 億円、2951 億円で、いずれも前年同期比 27%増加、伸び幅は前年同期に比べてそれぞれ 1.6 ポイント、5.2 ポイントで、売上高の伸びが最も大きな分野となった。情報技術コンサルティング、データ処理、保存サービスの伸びは高速から安定へと移行し、それぞれの売上高は 1443 億円、2455 億円、前年同期に比べて 24.8%増、24.4%増で、伸び幅は前年同期に比べてそれぞれ 0.8 ポイント、12.7 ポイント低かった。

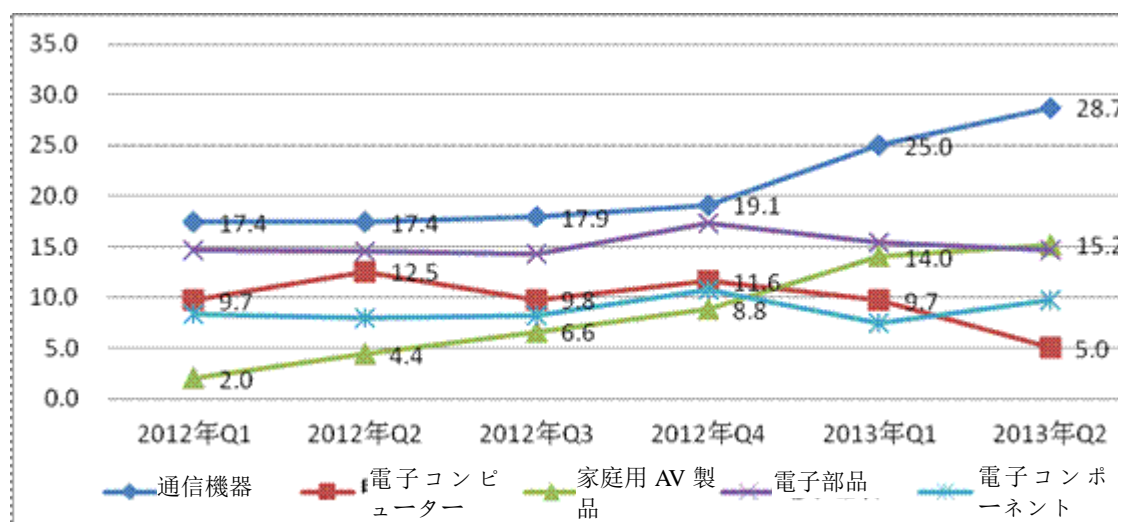


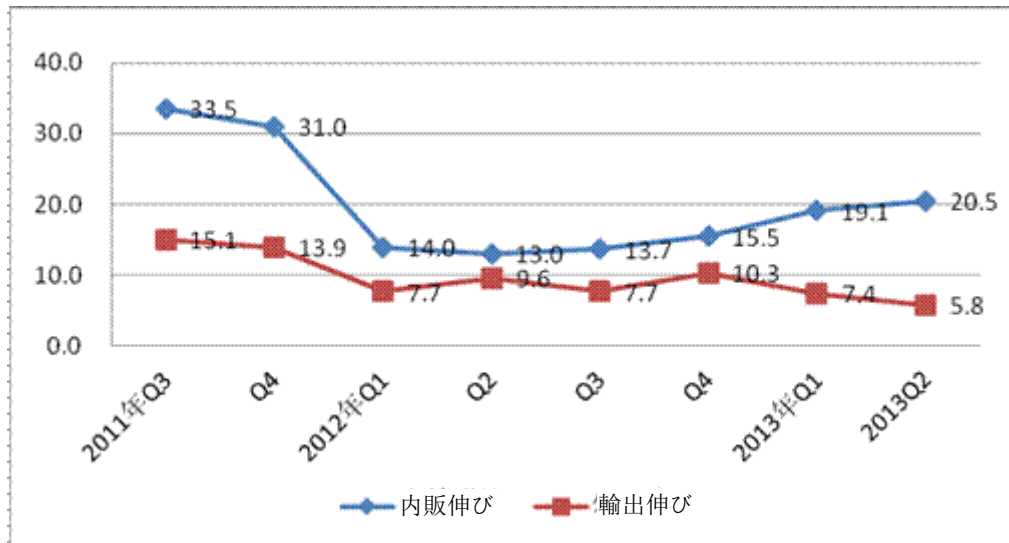
図 2 2012 年-2013 年 6 月の主要な産業の販売額の伸び比較

(二) 内販の寄与がさらに拡大し、輸出の伸びが持続的に低迷。

上半期、一定規模以上の電子情報製造業の内販額は 2 兆 836 億円で前年同期に比べて 20.5%増加、産業全体の平均伸び幅よりも 8.1 ポイント上回った。輸出額は 2 兆 2659 億円で前年同期に比べて 5.8%伸びた。

内販、輸出の伸びは前年同期比で明らかなコントラストを形成した。内販の伸び幅は前年同期に比べて 7.5 ポイント上昇した一方、輸出の伸び幅は前年同期に比べて 3.8 ポイント低下した。両者の差異はさらに激化し、前年同期の 3.4 ポイントから 14.7 ポイントに拡大した。

内販の寄与率は安定的に上昇した。6 月末時点までに、内販と輸出の産業全体の伸び率への寄与度は 74:26 で前年同期 (53:47) に比べて明らかなコントラストを形成した。



2011年-2013年6月、内販と輸出の伸び幅の比較

(三) 中部・西部地域のウエイトが安定的に伸び、東部地域は安定成長を保持した。

上半期、東部地域において販売額と輸出額はそれぞれ3兆5143億元、1兆9102億元で、それぞれ前年同期比8.8%増、1.0%増で、伸び幅は産業全体の平均水準を3.6ポイント、4.8ポイントそれぞれ下回った。これら2つの指標の全国のシェアの比率はそれぞれ80.8%、84.3%で前年同期(83.5%、88.3%)に比べてそれぞれ2.7ポイント、4ポイント低下した。

上半期、中部地域と西部地域における販売額の伸びはそれぞれ35.8%、28.6%で、それぞれ全国の平均水準を23.4ポイント、16.2ポイント上回った。輸出額の伸び幅はそれぞれ50.3%、44.0%で、それぞれ全国の平均水準を44.5ポイント、38.2ポイントそれぞれ上回った。しかし、前年同期に比べてそれぞれ43.3ポイント、77.2ポイント下落した。これら2地域における販売額と輸出額はそれぞれ7630億元、3350億元で、全国に占めるウエイトはそれぞれ17.6%、14.8%で前年同期に比べてそれぞれ2.7ポイント、4.1ポイント上昇した。

東北地域の伸びは安定したペースを保持した。上半期、東北地域における販売額は722億元、伸び幅は11.2%増、全国の平均水準より1.2ポイント下回った。輸出額は前年同期比6.7%低下した。

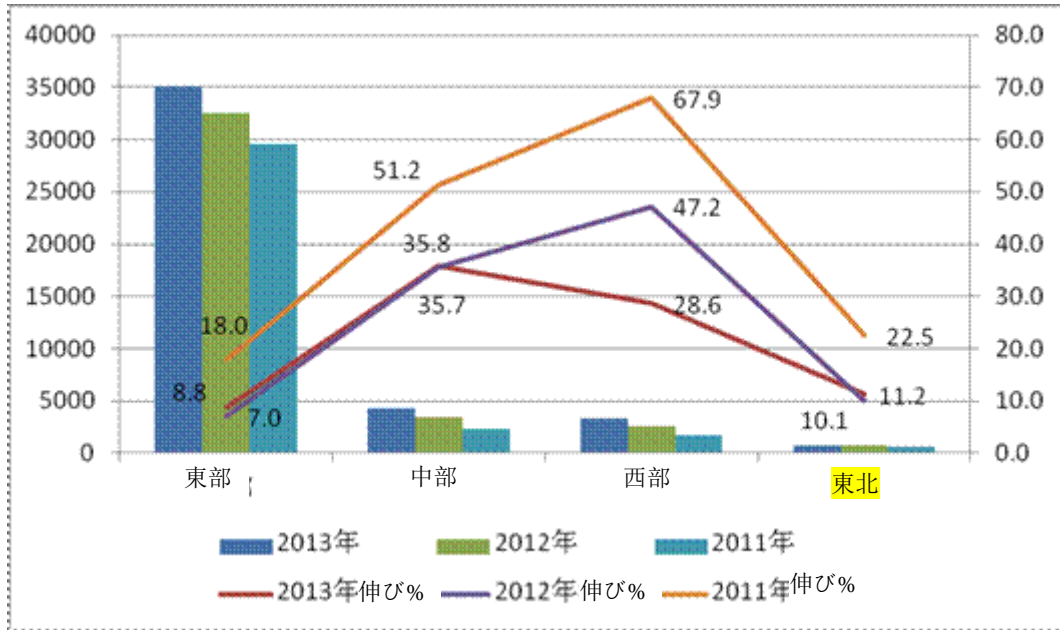


図3 2011年-2013年6月の東部、中部、西部、東北地域の生産高の情況

(四) 国内企業、香港・マカオ・台湾企業の伸び幅は全国の平均水準を上回った。外資企業のウエイトは引き続き下降した。

上半期、国内企業の販売額は1兆3682億円で前年同期比19.9%増だった。輸出額は2564億円で前年同期比18.7%増だった。それぞれ全国平均水準を7.5ポイント、12.9ポイント上回った。うち、私営企業の販売額は5404億円で、伸び幅は19.0%、産業の平均水準より6.6ポイント上回った。香港・マカオ・台湾企業の販売額と輸出額はそれぞれ1兆417億元、7017億円で、それぞれ前年同期に比べて12.8%、10.2%増加し、全国の平均水準をそれぞれ0.4ポイント、4.4ポイントそれぞれ上回った。外資企業の生産高、輸出額の伸びは持続的に低迷しており、特に輸出額は前年同期に比べて2%に及ばなかった。外資企業の販売額と輸出額の全国シェアはそれぞれ44.6%、57.7%で前年同期(46.7%、60.2%)に比べてそれぞれ2.1ポイント、2.5ポイント低下した。

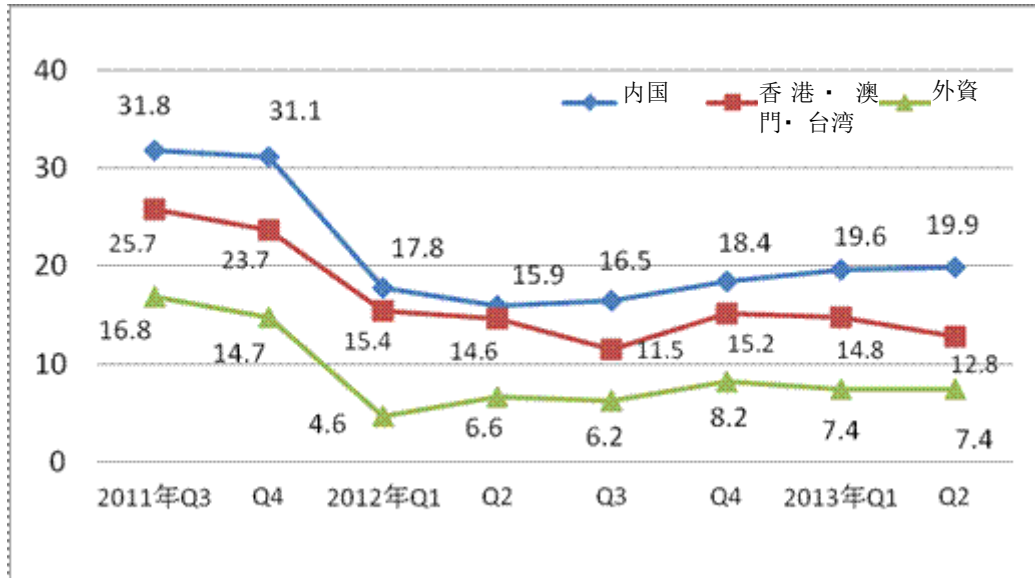


図4 2011年-2013年6月の各経済類型の販売額の伸び幅

2013年1-6月における電子情報製品の輸出入状況

【掲載時間：2013年8月8日】【出所：運行監測協調局】

一、輸出入の概況

2013年上半期、中国における電子情報製品の輸出入は急成長を呈し、輸出入総額は6489億米ドル、伸び幅は前年同期比21.1%だった。伸び幅は全国の商品対外貿易総額の伸び幅を12.5ポイント上回り、全国の対外貿易総額の32.5%を占めた。うち、輸出額は3792億米ドル、前年同期比18.8%増、伸び幅は前年同期に比べて13.6ポイント上昇し、全国の対外輸出額の伸び幅を8.4ポイント上回り、全国の対外輸出額の36.0%を占めた。輸出額は2698億米ドル、前年同期比24.5%増、伸び幅は前年同期に比べて27.1ポイント上昇し、全国の対外輸出額の伸び幅を17.8ポイント上回り、全国の対外輸出額の28.6%を占めた。

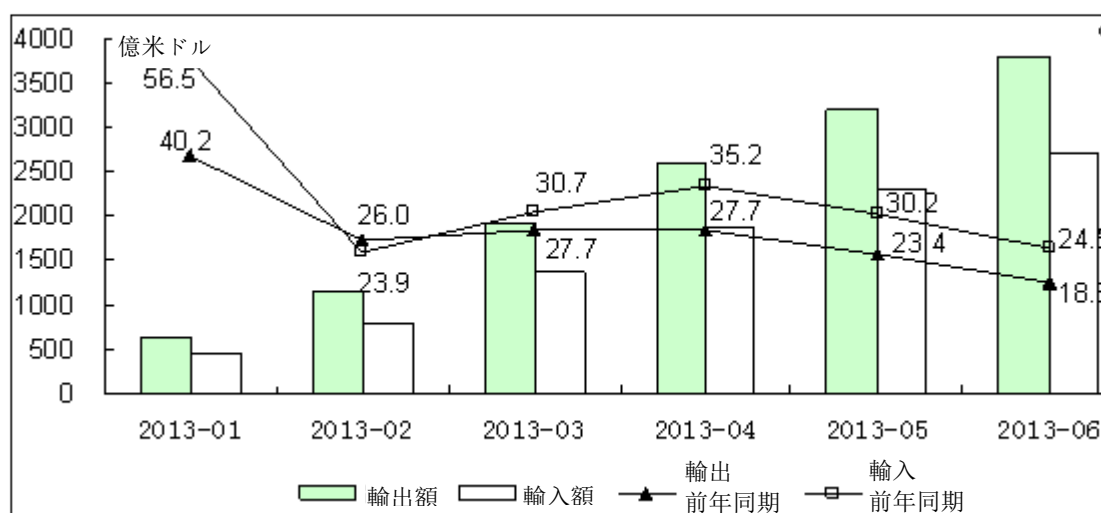


図1 2013年以降における電子情報製品の輸出入累計額の状況

二、輸出入の産業構造

輸出に関して、電子部品産業の伸び幅が最も際立ち、輸出額は902億米ドル、伸び幅は前年同期比145.8%で産業全体の平均水準を127ポイント高かった。通信設備の輸出も急速な伸びをみせ、輸出額は799億米ドル、伸び幅は前年同期比20.6%で産業全体の平均水準を1.8ポイント上回った。家電、電子材料、電子計器設備の輸出の伸びは穏やかで、輸出額はそれぞれ489億米ドル、27億米ドル、144億米ドル、その伸び幅はそれぞれ前年同期比14.8%、7.8%、11.3%だった。コンピューター、電子コンポーネント、ラジオ・

テレビ設備の輸出は減少を呈し、輸出額はそれぞれ 1054 億米ドル、344 億米ドル、33 億米ドルで、その減少幅はそれぞれ前年同期比 6.1%、16.2%、33.9%だった。

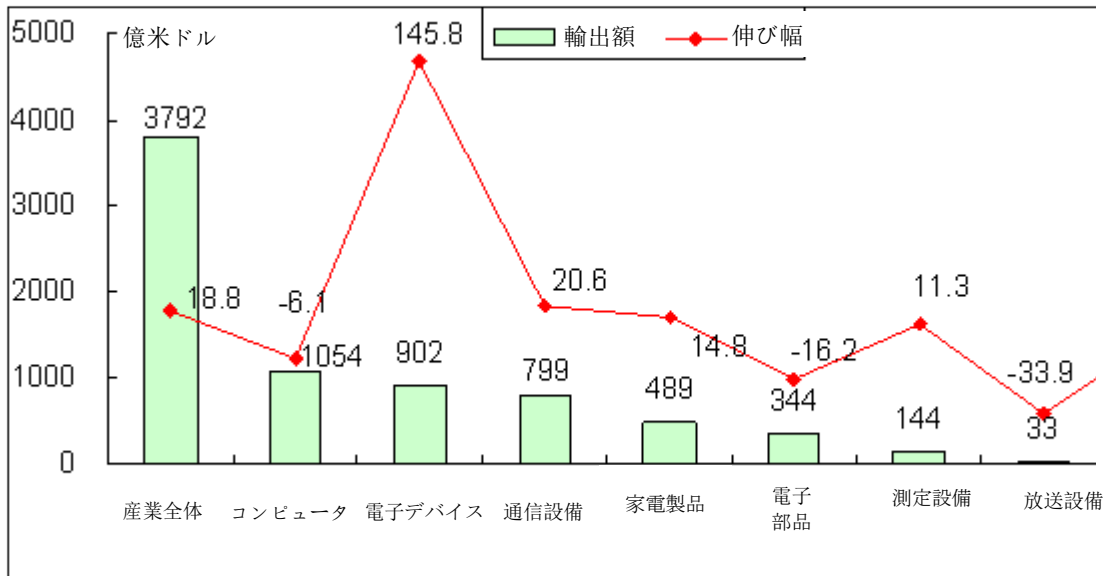


図2 2013年1-6月の電子情報製品の各産業における輸出状況の対比

表1 2013年1-6月の輸出額トップ5位の電子情報製品の状況

番号	製品名	輸出額 (億米ドル)	前年同期比 (%)
1	集積回路	525	191.6
2	ノートブック PC	511	-4.1
3	携帯電話	416	16
4	液晶パネル	185	17.5
5	携帯無線電話用部品	161	31.8

輸入に関して、通信設備、家電、電子部品および電子計器設備が増加を呈し、輸入額はそれぞれ 225 億米ドル、94 億米ドル、1581 億米ドル、196 億米ドルで、その伸び幅はそれぞれ前年同期比 40.9%、79.7%、66.4%、6.4%であった。コンピューター、電子コンポーネント、放送設備、電子材料の輸入額はいずれも前年同期に比べて減少し、輸入額はそれぞれ 286 億米ドル、258 億米ドル、20 億米ドル、37 億米ドル、その減少幅は前年同期比 8.2%、38.8%、54.7%、14.8%だった。

表2 2013年1-6月の輸入額トップ5位の電子情報製品の状況

番号	製品名	輸入額(億米ドル)	前年同期比(%)
1	集積回路	1172	41.7
2	液晶パネル	258	17
3	携帯無線電話用部品	150	41.6
4	ハードディスクドライブ	81	-28.6
5	プリント基板	64	-3.5

三、輸出入貿易方式の構造

輸出に関して、電子情報製品の一般貿易の輸出額は694億米ドルで前年同期比19.7%増、伸び幅は平均水準を0.9ポイント上回った。加工貿易の輸出額は2357億米ドルで前年同期比0.3%減だった。うち、進料加工(委託加工の一種。原材料を有償で輸入して加工した後、製品を有償で輸出する形態)貿易の輸出額は163億米ドルで前年同期比17.6%減だった。保税區倉庫の中継貨物、保税區倉庫の輸出入貨物、国境小口貿易の伸びは急速で、伸び幅はそれぞれ前年同期比228.11%、38.2%、95.6%だった。

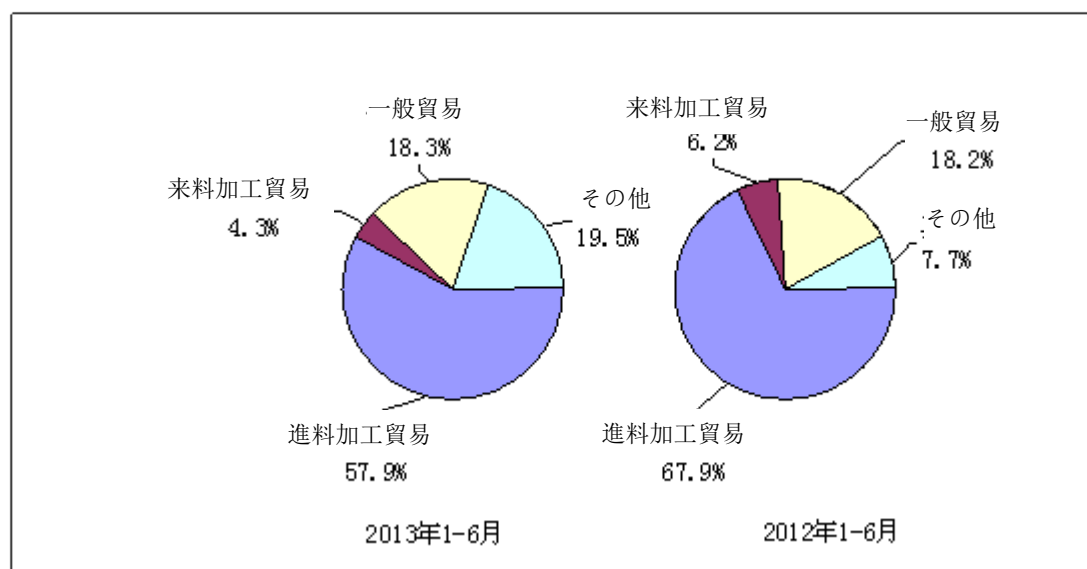


図3 2012年、2013年の1-6月における電子情報製品の主たる貿易方式の輸出額シェアの対比

輸入に関して、電子情報製品の一般貿易の輸入額は562億米ドルで前年同期比16.7%増だった。伸び幅の平均水準は7.8%だった。加工貿易の輸入額は1218億米ドルで、前

年同期比 2.3%増 r だった。うち、来料加工（委託加工の一種。無償供与された輸入原料を加工して全量を輸出し、委託者は受託者に加工賃のみを支払う形態）貿易の輸入額は 155 億米ドルで、前年同期比 13.9%減だった。保税區倉庫の中継貨物輸入額は急速に伸び、輸入額は 808 億米ドル、前年同期比 104.5%増だった。

四、輸出入の経済類型構造

輸出に関して、内資企業の輸出額は 1130 億米ドルで、前年同期比 82.7%増、輸出全体に占めるウェイトは 29.8%で、前年同期に比べて 10.4 ポイント高まった。うち、民間企業の輸出の伸びは最も際立ち、輸出額は 872 億米ドルで、前年同期比 136.2%増、平均水準の 117.4 ポイント上回った。外資の三資企業（合弁企業、合作企業、独資企業）の輸出額は全体で 2661 億米ドル、前年同期比 3.5%増で、伸び幅は平均水準に比べて 15.3 ポイント低かった。うち、独資企業の輸出額は 1978 億米ドルで前年同期比 0.3%増、合弁企業の輸出額は 653 億米ドルで 14.2%増、合作企業の輸出額は 30 億米ドルで 6.2%増だった。

輸入に関して、独資企業の輸入シェアは最高で、輸入額は 1311 億米ドル、前年同期比 1.5%減で、輸入総額は 48.6%を占めた。合弁企業の輸入額は 461 億米ドルで、前年同期比 19.9%増だった。民間企業は輸入伸び幅がトップで、輸入額は 744 億米ドル、前年同期比 166.1%増で、平均水準に比べて 141.6 ポイント高かった。

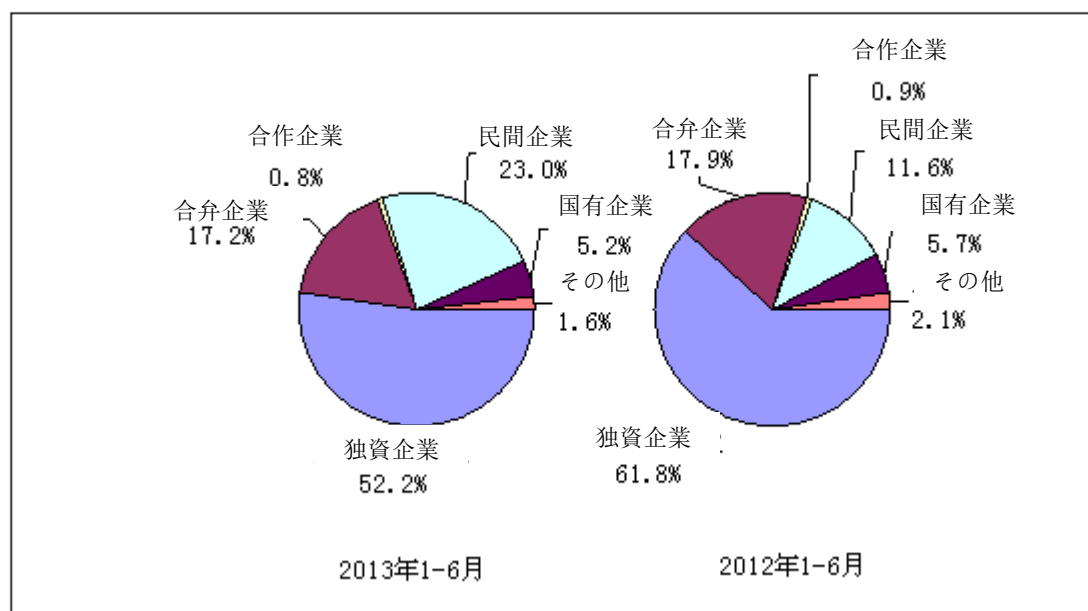


図4 2012年、2013年の1-6月における電子情報製品の企業別輸出シェアの対比

五、輸出入相手国・地域の構造

輸出に関して、上位5位の貿易パートナーの伸び幅の差異が大きく、香港（1240 億米ドル、前年同期比 63.0%増）が急成長したほか、米国（639 億米ドル、同 4.4%増）、日本（233 億米ドル、2.6%増）、韓国（199 億米ドル、18.2%増）、フィンランド（159 億米ドル、4.8%減）はいずれも伸びが緩和し、伸び幅は平均水準を下回った。ベトナム、メキシコ等の一部の新興市場国向けの輸出は急成長し、伸び幅はそれぞれ前年同期比 109%、19.9%だった。欧州市場向けの輸出は疲労をみせ、ドイツ、フランス、イタリアはいずれも減少傾向を示し、減少幅はそれぞれ前年同期比 16.7%、21.4%、17.2%だった。

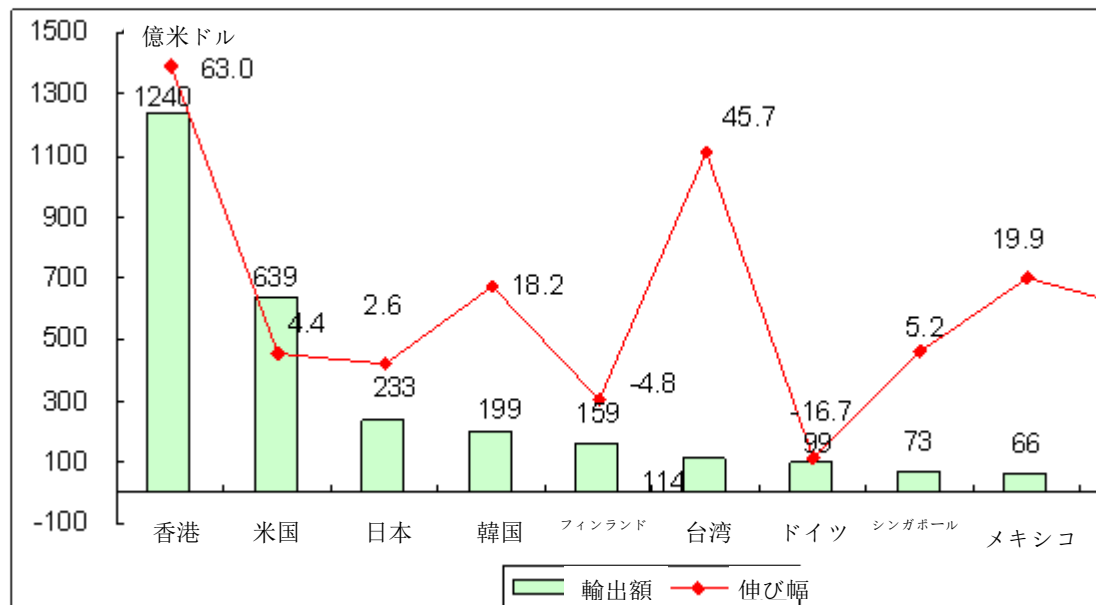


図5 2013年1-6月における中国の電子情報製品輸出額上位10位の国・地域

輸入に関して、再輸入を除いて、輸入額上位5位の国・地域はそれぞれ台湾、韓国、日本、マレーシア、米国で、輸入額はそれぞれ572 億米ドル、479 億米ドル、252 億米ドル、188 億米ドル、147 億米ドルで、それぞれ前年同期比 58.4%増、23.3%増、6.8%減、7.4%増、81.8%増だった。

六、輸出入地域の構造

輸出に関して、輸出額上位5位の省市は広東、江蘇、上海、浙江、天津でそれぞれ、1767 億米ドル、677 億米ドル、440 億米ドル、117 億米ドル、106 億米ドルで、それぞれ前年同期比 35.0%増、3.3%増、3.7%減、3.0%減、2.8%増だった。広東省が高成長を維持したのを除いて、他4省市はいずれも平均水準を下回った。重慶、陝西、山西等の中部・西部の省市の輸出は急成長をみせ、伸び幅はそれぞれ前年同期比 54.4%増、73.0%増、366.4%増だった。

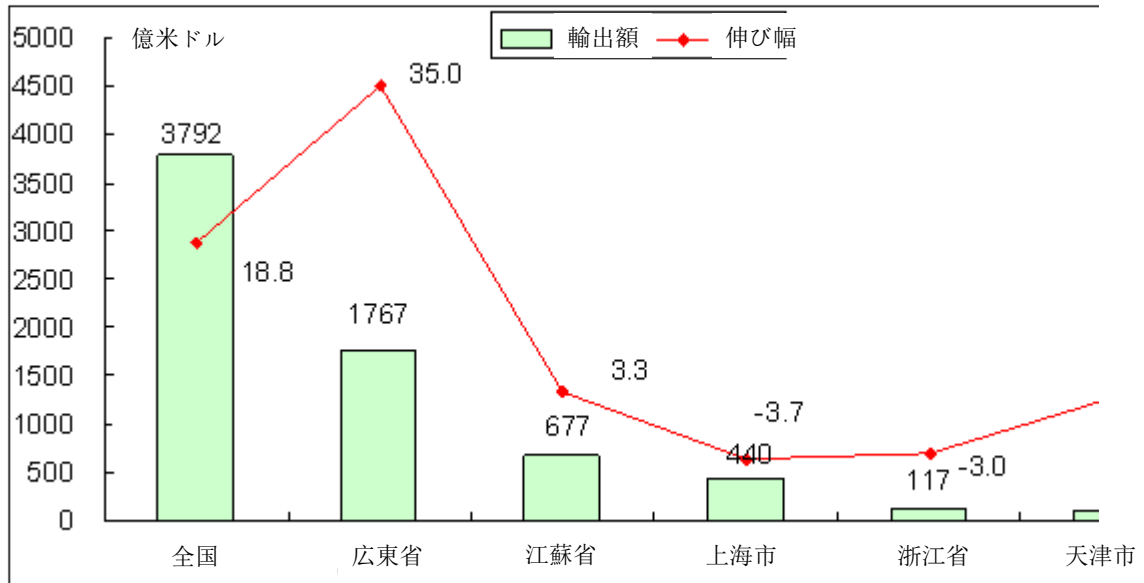


図6 2013年1-6月における電子情報製品輸出額上位5位の国・地域

輸入に関して、輸入額上位5位の省市は広東、江蘇、上海、天津、北京で、それぞれ1290億米ドル、420億米ドル、347億米ドル、108億米ドル、85億米ドルで、それぞれ前年同期比49.2%増、0.9%増、2.8%減、20.7%増、4.4%増だった。輸出と同じで、広東省を除いて、他4省市は伸び幅がいずれも平均水準を下回った。

6月の電子情報産業の固定資産投資は小幅に回復

【掲載時間：2013年7月29日】 【出所：運行監測協調局】

2013年上半期、電子情報産業における固定資産向け投資額は一貫して工業向け投資よりも5%以上下回り、全体的に低位の伸び幅を呈した。月毎にみると、投資額の伸びは「V」字型の情勢を呈し、4月に底打ちした後、明らかな回復の兆しをみせている。

投資額は2か月連続で回復し、伸び幅は再び2桁に戻った。1-6月、電子情報産業における500万元以上のプロジェクト投資額(完成ベース)は4731億元で、前年同期比10.4%増加、ことし初めて前年同期の伸び幅を上回った(2.2ポイント上回る。)月毎にみると、4月はわずか4.1%増を底打ちとして、5月と6月はそれぞれ連続して5.1ポイント、6.8ポイント回復し、6月の伸び幅は16%に達し、投資額(完成ベース)は1150億元に上った。

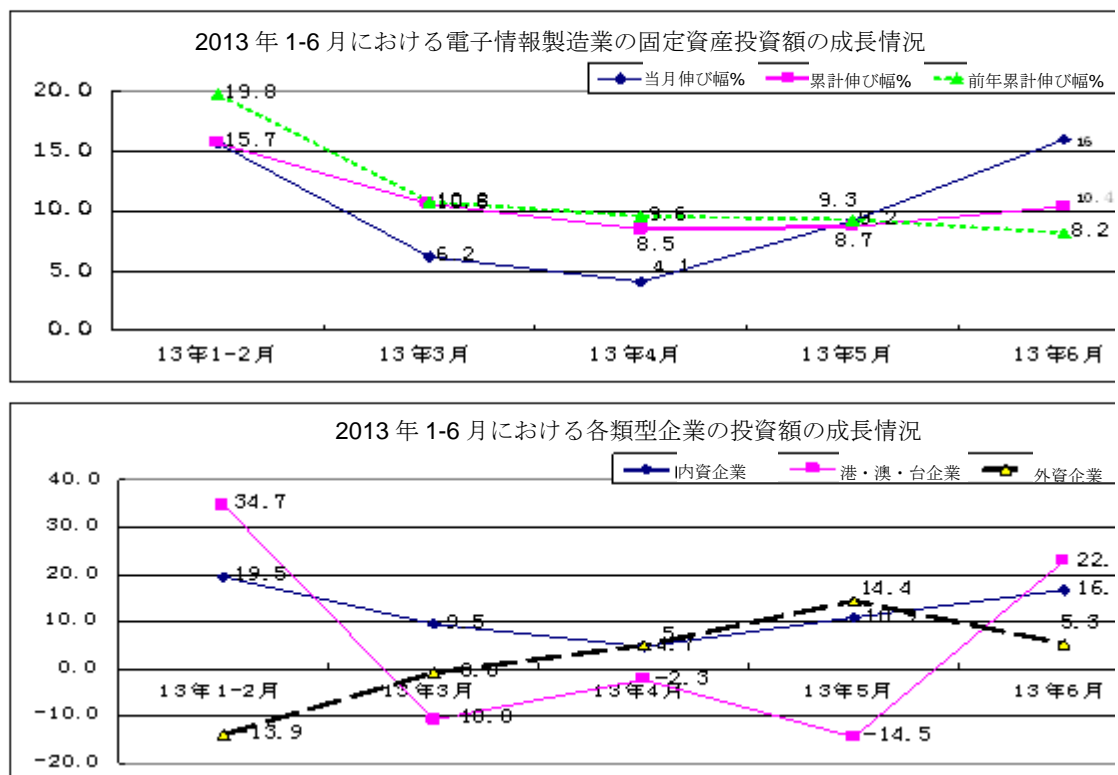
集積回路、通信設備分野の投資の成長が際立ち、コンピューター、PV等の産業は引き続き減少した。1-6月、集積回路分野の投資額(完成ベース)は248億元で、前年同期比58.5%増、伸び幅は前年同期を41.8ポイント上回り、年初(13%減)を71.5ポイント上回った。通信設備産業における投資額は394億元で、前年同期比46%増、伸び幅は前年同期よりも17ポイント高かった。コンピューター産業における投資額(完成ベース)は344億元で、前年同期比7%減、減少幅は1-5月と比べて引き続き2.2ポイント増えた。情報・電子機械産業の投資額(完成ベース)は776.5億元で前年同期比10.9%減、うちPV設備関連産業の投資額は前年同期に比べて24.8%減少した。情報材料産業における投資額は前年同期比44.6%減で、減少幅は1-5月に比べて2.8ポイント拡大した。電子コンポーネント及び専用設備産業における投資額は安定し、投資額(完成ベース)はそれぞれ989億元、589億元で、前年同期に比べてそれぞれ28.1%増、31.8%増だった。

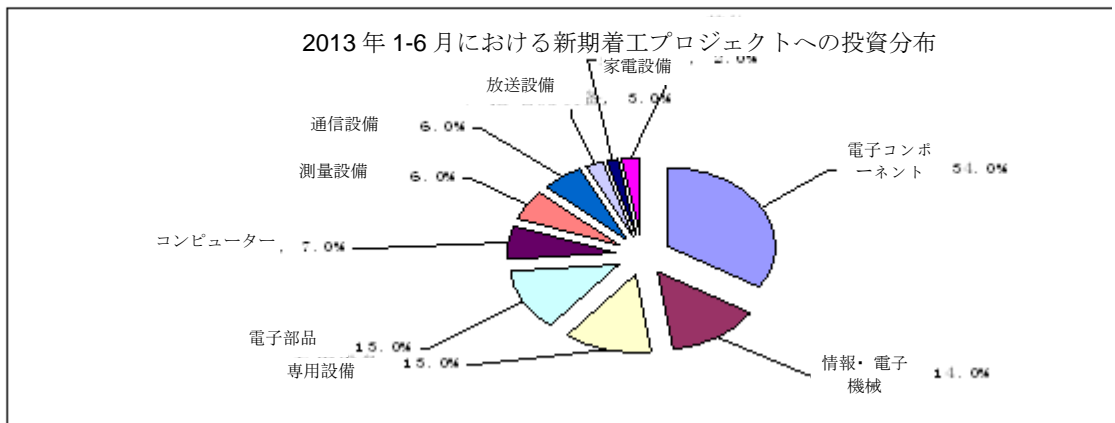
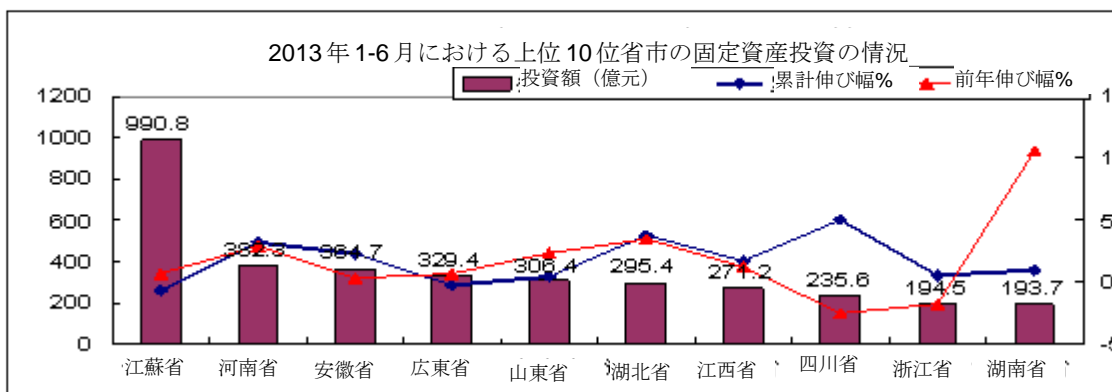
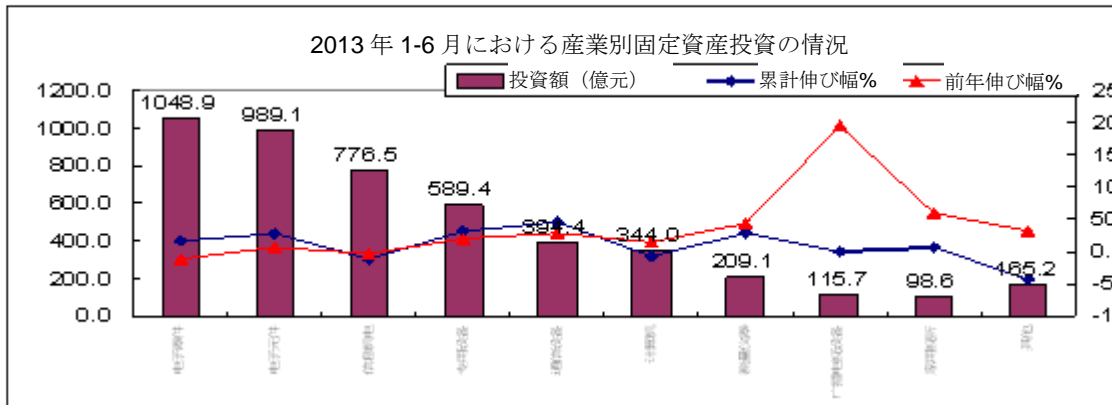
東部地域における投資額の減少幅は縮小し、東北地域における投資額はマイナスからプラスに転じた。1-6月、東部地域における投資額(完成ベース)は2335億元で、前年同期比0.5%減、減少幅は1-5月に比べて1.1ポイント下がった。東北3省(黒龍江、吉林、遼寧)における投資額(完成ベース)は199億元で、前年同期に比べて16.8%増加し、1-5月の前年同期比4.3%減の局面を反転させた。うち、通信端末設備、電子設備の投資額の成長が際立った。中部地域と西部地域における投資額(完成ベース)はそれぞれ1530億元、667億元で、それぞれ前年同期比23.8%増、25.3%増、伸び幅は前年同期をそれぞれ0.5ポイント、12.4ポイント上回った。中部地域及び西部地域における投資額が全国に占めるウエイトは前年同期に比べて9ポイント向上し、5割に接近した。

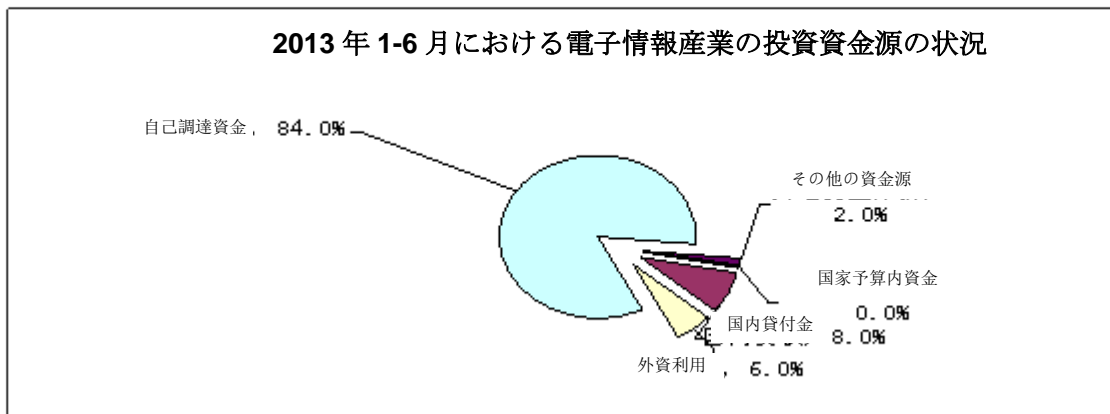
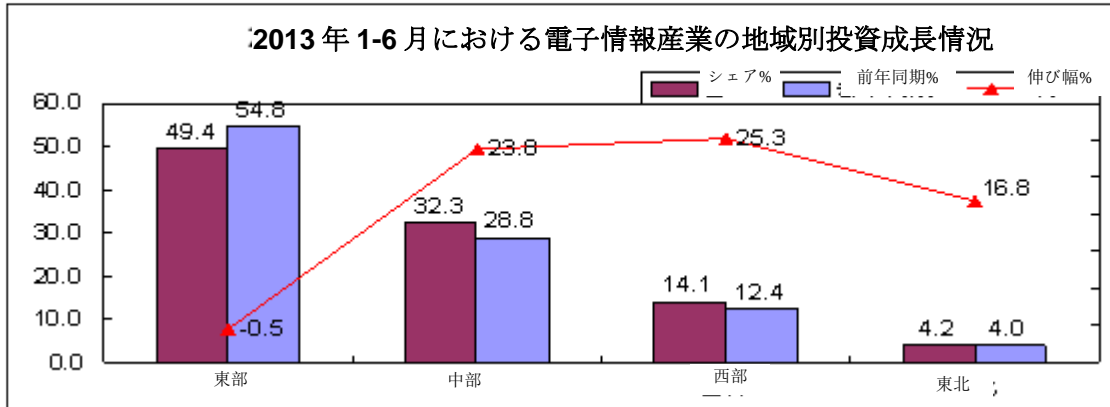
内資企業の投資額は安定しつつ上昇し、香港・澳門・台湾及び外資企業の投資額は減少傾向から抜け出した。1-6月、内資企業による投資額（完成ベース）は3787億円で、前年同期比12.3%増、伸び幅は1-5月に比べて1.4ポイント上昇した。香港・澳門・台湾及び外資企業の投資額（完成ベース）は401億元、543億円で、それぞれ前年同期比5.3%増、1.8%増、前年同期に持続的なマイナス成長の傾向から抜け出した。伸び幅は1-5月に比べてそれぞれ4.4ポイント、0.8ポイント上昇した。

新規着工したプロジェクトの数量は多くなく、放送、コンピューター等の多くの産業におけるプロジェクト数は減少した。1-6月、電子情報産業における新たな着工プロジェクトは4086件で、前年同期に比べて4.2%増加し、伸び幅は前年同期に比べて2ポイント減少したものの、1-5月に比べて1.6ポイント低かった。うち、放送、コンピューター、AV設備、電子部品、PV、情報材料等の分野における新規着工プロジェクトの数量は減少したものの、電子コンポーネント、通信端末設備にかかる新規着工プロジェクトは大きく増えた。

付属図：2013年1-6月における電子情報製造業の固定資産投資額







(以上)